



JICA
だより



ルワンダ
末川雄志さん(30)
廿日市市出身

国際協力機構(JICA)の海外協力隊員として、ルワンダの東部県キレヘ郡で、住民が安心して使える水のアクセス改善に取り組んでいる。

ここではインフラが整っておらず、農村部では湧水や手押しポンプによる井戸が重要な水源である。井戸は郡庁が修理するのだが、住民に故障報告の習慣がないためか、結果、壊れるとそのまま放置されていた。そうすると、住民は川や湖の水を利用せざるを得なくなり、健康被害も起きていた。派遣された当初は、

「安全な水」確保へ挑戦

故障した際には報告するよう住民をトレーニングしていたが、政府の政策変更があり、郡庁が修理の担当でなくなってしまった。私は住民自身による井戸



住民に書類を示しながら水委員会の仕組みなどを説明する筆者(左)

くれるならやあることが分かった。聞くよ」というと、住民は湖の水を飲んで声も少なくなかった。正直、自分の活動は間違っているのでは、と不安を覚えることも少なくなかった。それでもインフラ整備の第一歩として「安全な水」の確保が何よりも重要だとの思いは揺るがなかった。

その信念に従い、まずは自力で修理できる井戸から修理することにした。そして、ある村で壊れた井戸を調べていると、通りがかりの女性が話しかけてきた。すると彼女が村長の

の管理が何より必要と考えた。そこで住民に「水委員会」の設置と修理費用の集金、修理の呼びかけをすることにした。しかし、ひとつとな場合が多く「お金を

これまでの活動で、逆境であっても確固たる心を持ち、挑戦することの大切さを学んだ。私の活動は大海にしたたった一滴にすぎないかもしれないが、人々を安全な水で潤し続ける源になることを願っている。